

「質の高い臨床教育・研究の確保事業」における工程表

申請担当大学名	千葉大学
連携大学名	-
事業名	高度な連携実践能力を有する人材養成と双方向情報システム構築による持続的かつ先導的な包括的臨床教育研究支援プログラム

① 本事業終了後の達成目標

	本事業終了後の達成目標
達成目標	本事業では、患者や医療者との双方向コミュニケーションによって診療参加型臨床実習を促進する。指導医等との情報交換システムを構築し、安全な臨床実習を実現させる。年間50件のファカルティ・ディベロップメント(FD)実施、20個のFDコンテンツ作成で大学院および地域病院の指導医、多職種への指導スキルを向上させるとともに、実習医療機関を50機関まで展開させ、経験する医行為の数と種類を増加させることで質の高い実践力のある医師を養成する。また、質の高い臨床研究の確保として、研究指導者、研究者の育成プログラムを作成し、これを用いた研修を行うことにより、その成果として新規臨床試験のプロトコル作成件数を増加させ、質の高い論文として発表することを目指す。

② 年度別のインプット・プロセス、アウトプット、アウトカム

		診療参加型臨床実習の充実			質の高い臨床研究の確保		
		R5年度	R6年度	R7年度	R5年度	R6年度	R7年度
インプット プロセス (投入、 活動、 行動)	【必須】 本事業 で確保 する人 材及び 人数	・教育研究支援者 1人 ・事務補佐員 1人	・教育研究支援者 1人 ・事務補佐員 1人	・教育研究支援者 1人 ・事務補佐員 1人	・教育研究指導者 1人 ・臨床研究専門職員 2人	・教育研究指導者 1人 ・臨床研究専門職員 2人	・教育研究指導者 1人 ・臨床研究専門職員 2人
	定量的 なもの	・大学病院・地域病院アテンディングFD 7回/年 ・地域病院アテンディングFD 20回/年 ・臨床実習直前授業 2カ月 ・臨床実習用e-learning動画 4本/年	・大学病院・地域病院アテンディングFD 10回/年 ・地域病院アテンディングFD 40回/年 ・臨床実習直前授業 2カ月 ・臨床実習用e-learning動画 6本/年	・大学病院・地域病院アテンディングFD 10回/年 ・地域病院アテンディングFD 40回/年 ・臨床実習直前授業 2カ月 ・臨床実習用e-learning動画 8本/年	・組織横断的支援チームによる研究者支援と研究支援チームの実務演習 2回	・組織横断的支援チームによる研究者支援と研究支援チームの実務演習 2回	・組織横断的支援チームによる研究者支援と研究支援チームの実務演習 2回
	定性的 なもの	・患者用ホームページ開発 ・患者用目安箱システム開発 ・指導者向けチャットシステムの構築 ・患者用包括同意書 ・患者用パンフレット、掲示用ポスター作成 ・医療者用パンフレット、掲示用ポスター作成 ・千葉大学臨床教育研究統括会議の設置・開催 ・千葉大学臨床教育研究評価委員会の設置・開催	・患者用ホームページの運用 ・患者用目安箱システム試行 ・指導者向けチャットシステムの試行 ・千葉大学臨床教育研究統括会議の設置・開催 ・千葉大学臨床教育研究評価委員会の開催	・患者用ホームページのコンテンツ拡充 ・患者用目安箱システム運用 ・指導者向けチャットシステムの運用 ・千葉大学臨床教育研究統括会議の設置・開催 ・千葉大学臨床教育研究評価委員会の開催	・組織横断的支援チームによる研究者支援と研究支援チームの実務演習 ・OJTを通じた研究支援者指導育成スタッフの養成 ・千葉大学臨床教育研究統括会議の設置・開催 ・千葉大学臨床教育研究評価委員会の設置・開催	・組織横断的支援チームによる研究者支援と研究支援チームの実務演習 ・OJTを通じた研究支援者指導育成スタッフの養成 ・千葉大学臨床教育研究統括会議の設置・開催 ・千葉大学臨床教育研究評価委員会の設置・開催	・組織横断的支援チームによる研究者支援と研究支援チームの実務演習 ・OJTを通じた研究支援者指導育成スタッフの養成 ・千葉大学臨床教育研究統括会議の設置・開催 ・千葉大学臨床教育研究評価委員会の設置・開催
アウトプット (結果、 出力)	【必須】 成果物 の作成、 公表時 期	・ファカルティ・ディベロップメント用コンテンツ作成・公開数 5本/年 ・患者用ホームページ ・患者用目安箱システム開発	・ガイドライン等に基づく医行為の実施結果の検証結果の公開 ・ファカルティ・ディベロップメント用コンテンツ作成・公開数 10本/年 ・患者用ホームページ 公開 ・患者用目安箱システム試行	・ガイドライン等に基づく医行為の実施結果の検証結果の公開 ・ファカルティ・ディベロップメント用コンテンツ作成・公開数 20本/年 ・患者用ホームページ 公開 ・患者用目安箱システム運用	・臨床研究教育研修テキストの作成	・臨床研究についてのワークショップ形式の実務演習の公開	・国立大学病院臨床研究推進会議TG3(ARO/データセンター)で、本事業で構築した支援モデルの共有及び教育研修テキストを用いた実務演習の実施
	定量的 なもの	・アテンディングFD 延べ120名以上参加 ・臨床実習直前授業 約120名参加 ・臨床実習における実習医療機関数 10機関	・アテンディングFD 延べ240名以上参加 ・臨床実習直前授業 約120名参加 ・臨床実習における実習医療機関数 30機関	・アテンディングFD 延べ300名以上参加 ・臨床実習直前授業 約120名参加 ・臨床実習における実習医療機関数 50機関	・教育研修テキスト及び関連資料作成数 20個/年 ・組織横断的支援チームに対する教育研修数 48回/年 ・教育研修参加スタッフ数/研究者数 20名/40名 ・ワークショップ形式の実務演習を通じた研究支援 10件/年 ・ワークショップ形式の実務演習を通じた研究支援 10件/年 ・新規臨床研究の相談 40件/年 ・新規臨床研究の計画プロトコル作成の支援 25件/年	・組織横断的支援チームに対する教育研修数 48回/年 ・教育研修参加スタッフ数/研究者数 20名/40名 ・ワークショップ形式の実務演習を通じた研究支援 10件/年 ・新規臨床研究の相談 40件/年 ・新規臨床研究の計画プロトコル作成の支援 25件/年	・組織横断的支援チームに対する教育研修数 48回/年 ・教育研修参加スタッフ数/研究者数 20名/40名 ・ワークショップ形式の実務演習を通じた研究支援 10件/年 ・新規臨床研究の相談 40件/年 ・新規臨床研究の計画プロトコル作成の支援 25件/年
	定性的 なもの	・外部評価委員会による事業評価を実施 ・患者用包括同意書 ・患者用パンフレット、掲示用ポスター配布 ・医療者用パンフレット、掲示用ポスター配布	・外部評価委員会による事業評価を反映	・外部評価委員会による事業評価を反映	・外部評価委員会による事業評価を実施 ・臨床研究教育研修テキストを用いた研究支援者教育の説明会開催の開催	・外部評価委員会による事業評価を反映	・外部評価委員会による事業評価を反映
アウトカム (成果、 効果)	【必須】	本事業で学生が経験する医行為(以下、本事業で取り扱う医行為名) ・医療面接 ・身体診察全般 ・診療録記載 ・体位交換、移送 ・皮膚消毒 ・清潔操作 ・手術や手技のための手洗い ・手術室におけるガウンテクニック ・一次救命処置	本事業で学生が経験する医行為(以下、本事業で取り扱う医行為名) ※左記に加えて ・気道内吸引 ・静脈採血 ・末梢静脈の血管確保 ・胃管の挿入と抜去 ・尿道カテーテルの挿入と抜去 ・12誘導心電図記録 ・簡易血糖測定 ・基本的な縫合と抜糸	本事業で学生が経験する医行為(以下、本事業で取り扱う医行為名) ※左記と同じ	本プログラムで構築、強化した体制による臨床研究支援件数(新規+継続) ・研究支援チームによる新規臨床研究支援件数 ・倫理審査委員会での承認案件 ・倫理審査委員会での承認後の継続支援件数 ・研究の終了及び論文化	本プログラムで構築、強化した体制による臨床研究支援件数(新規+継続) ・研究支援チームによる新規臨床研究支援件数 ・倫理審査委員会での承認案件 ・倫理審査委員会での承認後の継続支援件数 ・研究の終了及び論文化	本プログラムで構築、強化した体制による臨床研究支援件数(新規+継続) ・研究支援チームによる新規臨床研究支援件数 ・倫理審査委員会での承認案件 ・倫理審査委員会での承認後の継続支援件数 ・研究の終了及び論文化
	【必須】 成果物 の普及	・指導医向けファカルティディベロップメント動画の提供	・指導医向けファカルティディベロップメント動画の提供 ・県内の医療機関を対象とするセミナー開催 ・関連学会での事例報告による公表	・指導医向けファカルティディベロップメント動画の提供 ・全国の大学、医療機関を対象とするセミナー開催 ・関連学会での事例報告及び論文による公表	・臨床研究教育研修テキストによる教育 ・組織横断的支援チームによる研究者支援と研究支援チームの教育	・組織横断的支援チームによる研究者支援と研究支援チームの教育	国立大学病院臨床研究推進会議TG3(ARO/データセンター)で、本事業で構築した支援モデルを共有及び教育研修テキストを用いた実務演習の実施
	その他 定量的 なもの、 定性的 なもの	・組織横断的な多職種による指導・評価体制の整備 ・診療参加型臨床実習の認知向上	・組織横断的な多職種による指導・評価体制の運用拡大 ・診療参加型臨床実習の認知向上	・組織横断的な多職種による指導・評価体制の運用拡大 ・診療参加型臨床実習の認知向上	・研究支援チームによる新規臨床研究支援件数 25件/年 ・倫理審査委員会での承認案件 10-20件/年 ・倫理審査委員会での承認後の継続支援件数 30件/年 ・研究の終了及び論文化 10件/年	・研究支援チームによる新規臨床研究支援件数 25件/年 ・倫理審査委員会での承認案件 10-20件/年 ・倫理審査委員会での承認後の継続支援件数 30件/年 ・研究の終了及び論文化 10件/年	・研究支援チームによる新規臨床研究支援件数 25件/年 ・倫理審査委員会での承認案件 10-20件/年 ・倫理審査委員会での承認後の継続支援件数 30件/年 ・研究の終了及び論文化 10件/年

③ 推進委員会所見に対する対応方針

要望事項	内容	対応方針
①	他大学の参考となるよう、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、実現するためのノウハウ、留意点等も含めて積極的に情報発信するなど、成果等の普及・展開に努めること。	本事業の成果はホームページで公表する。また、全国の大学、医療機関を対象とするフォーラムも開催するとともに、関連学会での事例報告及び論文による公表も行う。臨床教育の成果については、国立大学病院長会議の将来像実現化行動計画の年次報告書に掲載することで全国的な波及を図る。臨床研究の成果については、国立大学病院臨床研究推進会議TG3(ARO/データセンター)で、本事業で構築した支援モデルを共有及び教育研修テキストを用いた実務演習の実施などで広く発信していく。
②	長期的な展望に基づく具体的な事業継続方針を策定の上、補助期間終了後は更に発展的な取組として実施できるよう工夫して取り組むこと。	臨床教育については、本事業により教育支援体制やシステムなど事業継続のための基盤を構築する。事業の最終年度までに事業推進の効率化を進め、事業年度終了後は常設組織である医学部医学教育学や医学部附属病院総合医療教育研修センターにより事業を継続する。臨床研究については、本事業の実施を通して事業の効率的な遂行を推進し、事業継続のための外部資金及び学内の経費を別途確保する予定である。

④ 推進委員会からの主なコメントに対する対応方針

推進委員会からの主なコメント(改善を要する点)	対応方針
臨床実習の充実に関する複数の視点と取組みを提示されているが、本事業で既存の枠組みを超えた新たな視点に基づく取組みの展開が加わることに期待したい。	事業計画にしたがって事業を推進し、事業成果をふまえて新たな視点に基づく取組みを検討する。
地域医療機関や組織横断的な多職種指導体制について、より具体的な取組みの内容の記載があることが望ましい。	既に実習協力体制がある地域医療機関や、地域病院アテンディングが所属する地域医療機関と連携して診療参加型臨床実習を推進する。実習推進にあたって、医師、看護師、薬剤師などの指導者からなる多職種指導体制を構築して活用する。
患者からのフィードバックは極めて重要な視点であり、目安箱は重要な試みと感じる。ただし、目安箱である以上、無記名の自由な患者さんの医師に基づくご意見の投稿が主体となるので、どこまで実際に学生や教育者へのフィードバックとなるかは未知数であろう。	目安箱への投稿内容等を集計・分析し、学生や教育者へのフィードバックに資する内容を抽出する。目安箱システムの運用にあたっては、システムの目的を分かりやすく患者に説明し、実習改善のためのフィードバックへの協力を依頼する。

<p>申請大学が独自に作成した「Kolb の経験学習モデル」をベースにしたOJT プログラム教育研修テキストの経験を活用し、本事業でも教育プログラムの作成を行うことは先進性の点で評価できる一方、本事業により新たに新規性のある取組みを創出するという観点からはインパクトに欠ける部分もある。</p>		<p>「Kolb の経験学習モデル」は、ハーバード大学やシカゴ大学を始めとして医学教育の分野においても世界的に用いられている標準的な教育手法であるが、臨床研究に関わる教育においてはこれが残念ながらほとんど導入されていない。一方で我が国の研究力の低下は甚だしく、その解決のための臨床研究の活性化に向けた研究者及びその指導者の教育は喫緊の課題である。これを解決するための手段として本事業を実施する。本学では、この手法についてCRC教育などの支援者に用いてきたが、今回、初めて研究者やその指導者に対して導入することとした。</p>
---	--	--

⑤ 本事業ホームページURL(※ 提出時点でホームページが作成できていない場合は、作成見込年月を記入するとともに、完成次第URLのご連絡をお願いします。)

<p>当該事業ホームページURL</p>	<p>令和5年12月予定</p>
----------------------	------------------